

## 東京都が発行する「東京グリーン・ブルーボンド」への投資の件

2025年1月30日

一般社団法人東京都トリアスロン連合

一般社団法人東京都トリアスロン連合（以下「TMTU」）は、SDGsへの貢献、そしてESG投融資の一環として、2019年より東京都が発行する「東京グリーンボンド」「東京グリーン・ブルーボンド」への投資を継続的に行っております。

「グリーンボンド」とは、再生可能エネルギーの活用や省エネルギー性の向上といった環境改善効果のあるグリーン事業に調達資金用途を設定して発行される債券（ボンド）です。さらに、海洋環境保全等に資するブルー事業も加えて発行されるボンドを「グリーン・ブルーボンド」と呼びます。東京都が推進する当該事業の具体例は別紙でご参照ください。

### 【本債券の概要】

(1) 債券名称：第6回東京グリーンボンド

投資額：500豪ドル（4,651,000円）

償還期間：5年（2022/12/16～2027/12/20）

(2) 債券名称：第8回東京グリーン・ブルーボンド

投資額：700豪ドル（6,920,200円）

償還期間：5年（2024/12/17～2029/12/20）

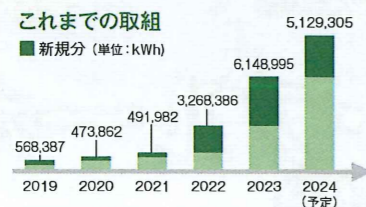
以上

# 事業内容

## 太陽光発電設備の導入

事業の環境効果  
再生可能エネルギー使用量  
(2024年度予定)

約**513**万kWh  
(一般家庭 約1.299世帯分の消費電力(年間)に相当)



**概要**

- 東京都は、気温上昇を1.5℃に抑えることを追求し、2030年までにカーボンハーフ、2050年までにCO<sub>2</sub>排出実質ゼロを目指しています。
- 都内CO<sub>2</sub>排出量のうち、「建物」からの排出が約7割を占め、CO<sub>2</sub>を排出しない太陽光等の再生可能エネルギーの活用を都府施設にて積極的に推進しています。

**整備予定箇所**  
府中高等学校、新宿警察署、荒川消防署 など

**SDGsへの貢献**  
11 持続可能な都市とコミュニティ  
13 気候変動への対応

**東京都の2030年目標**  
22.0%程度 (2022年度実績) 再生可能エネルギーによる電力利用率  
27.2% (2022年度実績) 都府施設(都庁等) 再生電力の再エネ化

## 海の森公園(海上公園)整備

事業の環境効果  
整備面積  
(2024年度未予定)

森づくりエリア 約**60**ha  
(東京ディズニーランド1個分と同様大きさ)



**概要**

- 東京都は、都民が海や自然と触れ合い、スポーツやレクリエーションの場となる海上公園の整備を進めています。
- 海の森プロジェクトは、東京港の中心部に浮かぶごみの島を、「資源循環」「協働」という2つのコンセプトに基づき、都民参加により美しい森によみがえらせる計画です。
- 周囲の海を活かし、自然や緑に親しむ公園として、緑の創出・保全を行うことにより、CO<sub>2</sub>削減やヒートアイランド現象緩和に繋がっていきます。

**整備予定箇所**  
海の森公園(海上公園)

**SDGsへの貢献**  
15 陸域生態系の保護

## ゼロエミッション・ビークル(ZEV)の導入

事業の環境効果  
排出ガス規制対象物質削減率\*  
(2024年度予定)

PHV(プラグインハイブリッド車) CO<sub>2</sub>削減率 **25.6%減**  
EVバイク NOx, CO, HC削減率 **100%減**

これまでの取組  
2023年度  
PHV …… 5台導入済  
EVバイク …… 135台導入済  
2024年度(予定)  
PHV …… 10台導入  
EVバイク …… 17台導入



\*従来の車両と新規に導入される車両の排出ガス規制対象物質の差分により削減率を試算

**概要**

- 走行時にCO<sub>2</sub>等の排出ガスを出さない電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド自動車(PHV)等をゼロエミッション・ビークル(Zero Emission Vehicle)と呼びます。
- 都内CO<sub>2</sub>排出量のうち、「運輸部門」の排出は約2割を占めており、CO<sub>2</sub>等排出削減のため、東京都は率先して庁有車や都府施設における車両のゼロエミッション化を進めています。

**整備予定箇所**  
PHV …… 矢川消防署ほか9署  
EVバイク …… 立川消防署ほか5署

**SDGsへの貢献**  
11 持続可能な都市とコミュニティ  
13 気候変動への対応

**東京都の2030年目標**  
【自動車】55.0% (2022年度実績) 新カブリ化率

## 防潮堤の整備

事業の環境効果  
東京港の防潮堤の整備延長  
(2031年度予定)

約**60.4**km

これまでの取組  
東京港の防潮堤の整備延長実績  
(2023年度末時点)

**58.1**Km



**概要**

- 東京都は2023年3月、「東京湾沿岸海岸保全基本計画[東京都区間]」を改定し、地震や台風に対する安全性を確保するため、海岸保全施設の耐震・耐水化対策等を推進しています。
- 気候変動の影響による海面上昇\*や台風の強大化に伴う波浪の増大等への対応を図るため、防潮堤の嵩上げを段階的に実施しています。  
\*東京周辺の沿岸域の平均海面水位は、21世紀末に約0.6m上昇すると推定

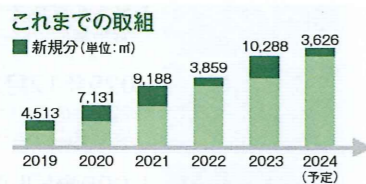
**整備予定箇所**  
平久運河(江東地区)  
朝潮運河(中央地区)  
ガスミオ運河(港南地区) など

**SDGsへの貢献**  
11 持続可能な都市とコミュニティ  
13 気候変動への対応

## 緑化整備

事業の環境効果  
緑化面積  
(2024年度予定)

約**3,626**m<sup>2</sup>



**概要**

- 東京都では都府施設の改築や改修を行う際、屋上や壁面の緑化整備を実施しています。
- 屋上や壁面の緑化を推進することにより、ヒートアイランド現象の緩和、ビルの省エネルギー、大気浄化などの効果を発揮しています。
- 日常的な緑とのふれあい、鳥や昆虫を呼び戻すことによる自然性の回復等の効果が高まるとともに、二酸化炭素の吸収量の増加により地球温暖化対策への貢献ができます。

**整備予定箇所**  
府中高等学校  
中野工科高等学校  
あきる野学園 など

**SDGsへの貢献**  
15 陸域生態系の保護

## 東京港ブルーカーボン整備事業

事業の環境効果  
整備箇所  
(2025年度未予定)

**1**か所

東京都のブルーボンドについて  
ブルーボンドとは、グリーンボンドの1つであり、海洋環境の保全等に資する事業に調達資金用途を限定したものです。  
東京都のブルーボンドは、2023年にICMA等が公表した「持続可能なブルーエコノミーの資金調達に向けた債券実務者ガイド(SBEガイド)」に基づいている旨の評価を第三者機関より取得しています。



(写真はイメージです)

**概要**

- 海洋生態系が、光合成によりCO<sub>2</sub>を取り込み、その後海底や深海に蓄積される炭素のことを、「ブルーカーボン」と呼びます。
- このブルーカーボンが、地球温暖化対策の新たな選択肢として注目され、世界的に取組が拡大しています。
- 東京港においても、CO<sub>2</sub>吸収源として大きなポテンシャルが期待されているワカメやアマモなどのブルーカーボン生態系を構成する藻場の造成を実施していきます。

**整備予定箇所**  
東京港内

**SDGsへの貢献**  
13 気候変動への対応  
14 海洋資源の持続可能な利用